

東京を舞台とするJ-POPのミュージックビデオにみる都市生活像

The City Life Image in Music Video of J-POP on the stage of Tokyo

奥山研究室 21M50031 市原未悠 (ICHIHARA, Miyu)

1. 序

ミュージックビデオ(以下、MV)は、街頭広告やテレビ番組から動画共有サイトまで幅広く視聴されている、音楽と映像が融合したメディアである。そこでは演奏の様子に加え、楽曲の世界観に呼応するような都市風景や活動が描写される場合が多く、人々の都市イメージの形成に影響を与えていると考えられる。なかでも東京を舞台とするJ-POPのMVからは、猥雑な都市風景を群衆のシーンの断片的な集合で描くものや、夜の繁華街を独歩する人物を長回しで撮影し都市での疎外感を強調するものなど、様々な生活の様相を見てとれる。このような描写から、映像の内容・形式と楽曲構成が輻輳化して形成された都市生活イメージの典型を見出すことができると考える。そこで本研究では現代の東京を舞台とするJ-POPのMVを資料^{註)}に、描写内容や形式的側面を検討することで、東京における都市生活像の一端を明らかにすることを目的とする。

2. MVの描写内容

2-1. シーンの描写内容 資料としたMVはカメラの切り替わりのない一連の映像であるショットの集合から構成されており、ここでは街並みや人々の生活が描かれている。ここでまず、同じ内容を持つショットのまとまりをシーンと捉え、全資料76曲から4402シーンを抽出し、それを以降の分析単位とした。

2-2. 描写内容の分類 シーンから読み取れる描写内容を【人物】、【活動】、【時間】、【空間】の4つに大別した(図2)。【人物】と【時間】は【活動】と【空間】の属性として捉えられる。それぞれの内容を整理した。【活動】は、〈生活〉〈移動〉に加え、卒業式などの式典や、非日常・非現実的な行為である〈イベント・娯楽〉〈恋愛〉〈事件〉〈ファンタジー〉、人物は描写されているが動きがない〈佇み〉、楽器演奏やダンスなどの〈パフォーマンス〉8つに分類した。【空間】は《都市空間》と《建築物》に大別され、《都市空間》は高層ビル群や住宅街などの〈街並み〉、高速道路や車内などの〈交通〉、公園や駐車場などの〈空地〉、海や河川敷などの〈自然〉、東京タワーやスクランブル交差点など東京を象徴する〈ランドマーク〉の5つに分類した。《建築物》は学校や飲食店などの〈都市施設〉と〈居住空間〉に分類した。

2-2. 描写内容の組合せ 前節で検討した描写内容をシーン単位で集計し、【活動】における【人物】の割合、【空間】における【時間】の割合の関係を示した(図3)。さらに、【空間】と【活動】の組合せから、MVに描かれる都市生活の類型を捉えた。最も多くみられた組合せである〈移動〉×〈交通〉では、高速道路を複数人でドライブする様子や、街路をひとり歩く様子など様々な状況がみられた。次いで多くみられた〈パフォーマンス〉×〈街並み〉では〈街並み〉を背景としてアーティ

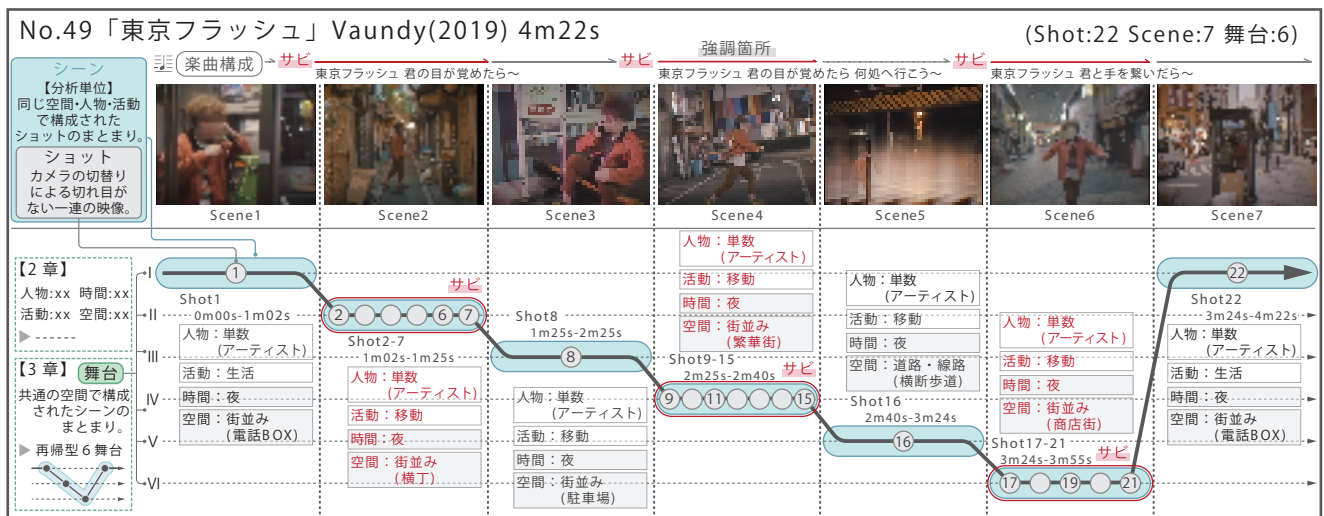


図1 分析例

ストの活動が主体として描写されている。また、〈街並み〉が描写されているシーンの半数以上が夜間であったことから、夜の繁華街や高層ビル群の明かりが東京を象徴する都市風景として扱われていると考えられる。また、〈ランドマーク〉は〈パフォーマンス〉に加え【活動】がみられないものとの組合せが多かった。このことから、〈ランドマーク〉が背景としてだけでなく、強い印象を与える要素として、効果的に活用されているといえる。さらに〈イベント・娯楽〉と〈都市施設〉、〈恋愛〉と〈居住空間〉の組合せも比較的多くみられ、これらも都市生活の典型的な情景が表現されたものと考えられる。

2-3. シーンの複合性と重層性 MVではひとつのシーンに複数の【空間】要素が描写されるものがみられる。そこでは街並みと東京タワーが同時に映されるシーンや、タクシーの車内越しに繁華街の明かりが映り込んでいるような奥行き感のあるシーンなどがあり、前者を『複合性』後者を『重層性』として【空間】の組合せを検討した(図4,5)。

『複合性』をもつシーンの中で最も多くみられたものが〈交通〉と〈街並み〉の組合せであり、ビル群の間を通る幹線道路が東京の都市風景を象徴する要素として認識されていると考えられる。また屋上から高層ビル群や住宅街を一望するシーンなどが含まれる〈空地〉と〈街並み〉の組合せや〈ランドマーク〉と〈街並み〉の組合せが次いで多くみられた。これらからは、空中

からの視点や有名建築を用いた記号化された表現を読み取ることができる。

『重層性』をもつシーンの中で最も多くみられたのが、車窓越しに街並みを映す〈交通〉と〈街並み〉の組合せであり、次いで〈都市施設〉と〈街並み〉の組合せが多くみられた。これらは窓を介して街並みを部分的に切り取ることで、奥行き感がより強調された都市風景が表現されたものと考えられる。

3. MVの描写形式

3-1. 楽曲の構成と強調箇所 J-POPには、イントロ、Aメロ、Bメロ、サビ、Cメロ、アウトロといった楽曲の構成形式があり、これらはMVによって形成される都市生活像と密接に関わり合っていると考えられる。中でもサビは楽曲内で最も重視されるパートであり、各種メディアで引用される際にも主に用いられている。そこで、サビが歌われているシーンを強調箇所として捉え、全体における強調シーンの割合を示した(図6)。

3-2. 舞台の移り変わり 今節では同一の場所を描写したシーンを舞台として捉え、楽曲ごとに図式化を行った(図7)。MVの長さは3分~5分の間におさまるため、ひと作品あたりに登場する舞台の数が少ないものは、空間において連続的な描写がされており、舞台数が多いものは断片化された描写がなされていると捉えることができる。

次に作成した図式をもとにMVの中で舞台がどのよう

種類	具休例	
人物	単数 1472: アーティスト / 男性 / 女性 / 高校生	
	複数 1245: アーティスト (グループ) / サラリーマン	
活動	生活 423: 食事 / 勉強 / タバコ / 料理 / 労働 / 飲酒	
	移動 688: 歩く / 走る / ドライブ / 自転車を漕ぐ	
	イベント・娯楽 187: レジャー / 花火 / ダンス / 祭り / 卒業式	
	恋愛 188: 手を繋ぐ / 抱きしめる / キス	
	事件 73: 殺人 / 拳銃を突きつける / 緊急搬送	
	ファンタジー 61: 空を飛ぶ / 巨大化する / 魔法を使う	
	佇み 497: 佇む / 座る / 黄昏れる / うなだれる	
	パフォーマンス 773: 歌唱 / 演奏 / ダンス	
	空間	街並み 971: 高層ビル群 / 夜景 / 繁華街 / 住宅街
		交通 829: 街路 / 高速道路 / 高架下 / 線路 / 車内 / 駅
空地 488: 広場 / 公園 / 駐車場 / 工事現場 / 屋上		
自然 313: 河川敷 / 峠 / 海 / 浜辺 / 山 / 森林		
ランドマーク 174: 東京タワー / スクラップ交差点		
建築物	都市施設 750: 飲食店 / 学校 / 病院	
	居住空間 388: 居室 / キッチンバスルーム / 共用部	
時間	日中 (*1) 969: (*1) 日の出から日没までの空が明るい間	
	薄明 (*2) 371: (*2) 日の出前・日没後の空が薄明るい間	
	夜間 (*3) 1342: (*3) 日没から日の出までの空が暗い間	

図2 MVの描写内容

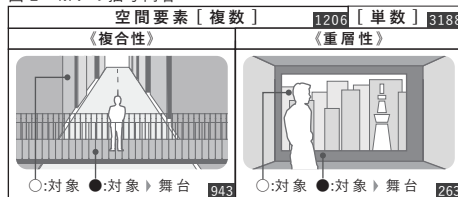


図4 空間要素の複合性と重層性

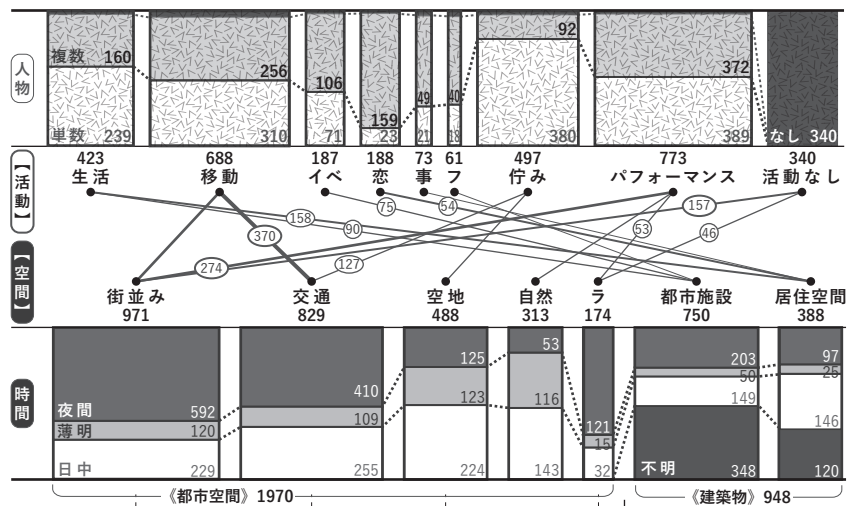


図3 MVの描写内容の組合せ

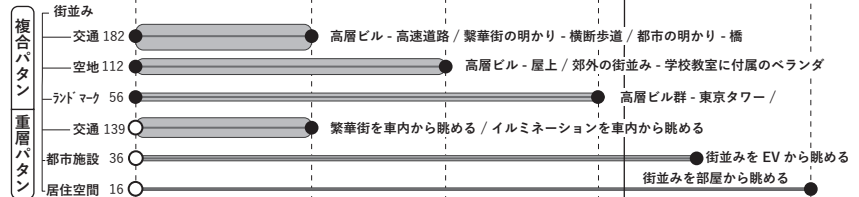


図5 複合パターンと重層パターンの代表的な組み合わせ

に移り変わっているかを検討した(図8)。まず、MVの始点と終点の舞台が同一であるか否かで大別し、前者を[一致]、後者を[不一致]と定義した。[一致]では冒頭に登場した舞台に再帰することから、舞台とストーリー性が強調されたMVと考えられる。また、[一致]のなかでも、多くの舞台が描写されているものは、舞台の切り替わりが多いながらも冒頭のシーンに再起しているため、より強いストーリー性を見出すことができると考えた。また[不一致]では、様々な場所の集合により都市が描写されていると捉えられ、舞台数が多いほど断片化した都市像が表現されていると考えられる。さらにMVごとの舞台数の中央値である7舞台を超えるか否かで大別した。

4.描写形式と描写内容からみる東京の都市生活像

前章で検討したMVの描写形式を基に、強調箇所と定義したサビおよび始点・終点における描写内容を楽曲ごとに検討した。まず、始点と終点の[一致][不一致]で楽曲を大別し、さらに舞台の数に基づいて楽曲を整理した。[一致]では舞台がひとつのみのMVを特殊例として分類し、それ以降は中央値である6舞台を境目に整理した。一方[不一致]では舞台がひとつのみのMVが見られなかったため、2~6舞台と7以上で整理した。その結果、6つの類型を捉えることができ、代表的な楽曲を具体例として図9に示した。

〈街並み〉が舞台として登場する楽曲は全体を通してみられた。Aのように[一致]では始点・終点が〈街並み〉に位置するものが多くみられた。中でも街路空間から始まり街路空間で終わるMVである資料No.37、No.38のように終始同じ舞台で活動を行う様子を映し出すものや、No.49のように類似した空間を舞台として連続的に〈移動〉し続けるようなものがみられた。ここからは、都市を空間と活動から連続的に描写することで具体的な都市での生活を捉えることが出来る。一方、Bのように[不一致]における舞台数が多い楽曲群では〈活動なし(×)〉が単発的かつ複数舞台に亘って登場する傾向がみられた。例えば、No.19のように終始、繁華街や高層ビル群などの猥雑な都市風景を、人々を映さずに断片的なシーンの集合として描写したものや、No.67のように〈ランドマーク〉での〈パフォーマンス〉の合間に〈街並み〉や〈交通〉が都市のイメージとして挿入されているようなものもみられた。これらは均質化された、現実感に乏しい都市像として表現されていると考え

る。

〈交通〉が舞台として登場する楽曲については、[一致]に着目した場合、Cのように舞台数が多い楽曲群に多くみられ、活動は〈移動〉が多かった。このことから、〈交通〉は複数の舞台を繋ぐための手段としてのとして描写されていると考えられる。No.33でも目的の場所に向かう過程として橋や歩道橋を走る様子が描写されていた。一方、[不一致]の楽曲では〈パフォーマンス〉など〈移動〉以外の活動もみられたため、交通空間が背景化していると考えられる。

〈ランドマーク〉が舞台として登場するMVについてはDのように[不一致]の中で3舞台以上の楽曲に多くみられ、いずれの舞台においても繰り返しの出現頻度が少なかったことに加え、みられた活動もバラバラであった。No.2、No.59、No.19などからも以上で示したのと同様の状況が読み取れた。このことから〈ランドマーク〉は東京を象徴する効果的な要素として活動に関わらず用いられていると考えられる。

Eは舞台が〈都市施設〉〈居住空間〉といった建築物のみで構成されるタイプであり、[一致]のなかの舞台数が中央値より少ない楽曲群で多くみられた。No.3では、終始住宅での朝の準備を連続的に映しており、No.56では住宅で生活や佇み、パフォーマンスなど様々な活動が行われている様子がみとれた。同様にNo.9でもストーリーの展開とともにひとつの舞台で様々な活動を連続的に行っている様子がみられた。

5. 結 以上、現代の東京を舞台とするJ-POPのMVにおいて、描写内容や形式的側面を検討することで、東京における都市生活像の類型を考察した。その結果、空間や活動を少数の舞台で連続的に描写するものと、多数の舞台が次々に切り替わることで断片的に描写されるものがみられた。これらの描写からは、具体性を伴った人々の生活像と、均質化され、現実感に乏しい都市生活像という対照的なイメージを読み取ることができる。

註 対象とする資料は、1993年以降に配信された楽曲で、歌詞検索サービスの検索において「東京」「トウキョウ」「Tokyo」を含み、動画配信サイトYou tubeでの配信において200万回以上の再生を記録し、東京の都市生活が描写されていることが確認された76資料とする。

1993年以降の資料を対象とした理由として、日本におけるMV認知の急速な拡大に寄与したCOUNT DOWN TV (TBS系で木曜深夜に放送された、ランキング形式で楽曲を紹介する音楽番組)の放送が始まったことが挙げられる。

参考文献

- 1) 永富真梨 他2名:クリティカル・ワード「ポピュラー音楽」,フィルムアート社,2023
- 2) 溝尻真也:「日本におけるミュージックビデオ受容空間の生成過程

- エアチェック・マニアの実践を通して-」2006

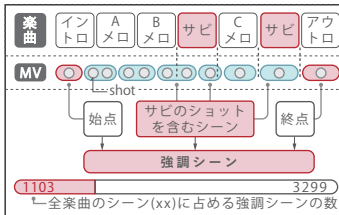


図6 抽出した強調シーン

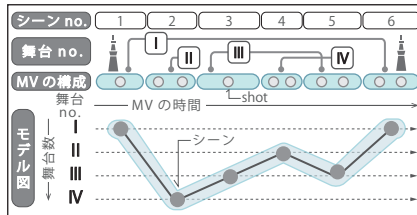


図7 シーンと舞台の関係

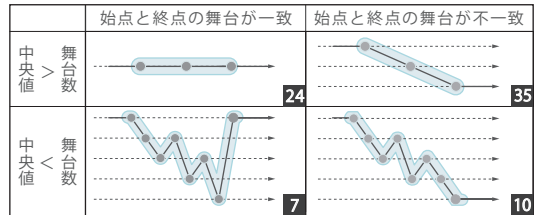


図8 始点・終点シーンの舞台の一致 / 不一致と舞台数

形式	舞台数	《都市空間》					《建築物》		
		街並み	交通	空地	自然	ランドマーク	都市施設	居住空間	
始点と終点の舞台が一致	1	no09, no26, no37, no51, no56, no76					F9R9S1M, P3X	E	
	13	他7資料							
	2	no38, no49						P1A3K2S2M, P5E4R1S1X, P	
	6	他9曲							
	11	no54, no34, no48							
	7	以上							
	7	他4資料							
	始点と終点の舞台が不一致	2	no01, no31, no45, no63, no23, no28						
		6	他29資料						
		35	no69, no24, no67, no70, no19						
		7	以上						
10		他6曲							
10		他6曲							
10		他6曲							
10		他6曲							
10		他6曲							
10		他6曲							

凡例: X:活動のカテゴリー n:活動ごとのシーン数 始点の舞台:▶ 終点の舞台:■ 舞台の登場回数: 1 2 3 4 5 10 15以上

A No.76 「I Say Bye」 imase(2023)

ショット数: 58
シーン数: 1
舞台数: 1

居住空間のみをさまざまな角度から描写する。

B No.49 「東京フラッシュ」 Vaundy(2019)

ショット数: 22
シーン数: 7
舞台数: 6

東京の繁華街を舞台上に長回しで描写する。

C No.01 「東京は夜の七時」 PIZZICATO FIVE(1993)

ショット数: 69
シーン数: 35
舞台数: 8

東京タワーをアイコン的に利用し東京の夜景を描写する。

D No.70 「東京」 SUPER BEAVER(2022)

ショット数: 189
シーン数: 111
舞台数: 17

都市空間や校舎など多数の場を舞台上、登場人物をオムニバス風に長回しで描写する。

E No.19 「ユリイカ」 サカナクション(2014)

ショット数: 244
シーン数: 211
舞台数: 88

東京タワーやスクランブル交差点などの名所やありふれた都市空間を、アーティストの演奏映像と交互に断片的に描写する。

図9 描写内容と描写形式からみる東京の都市生活像